



LUCIAS SIGN & DISPLAY

Laboratory of Ubiquitous Media Creations, Imaging Arts and Sciences

2026年5月15日

甲南大学 阪本研究室

「電子機器トータルソリューション展 2026」出展のお知らせ

甲南大学知能情報学部 阪本研究室は、2026年6月10日より東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される「電子機器トータルソリューション展 2026」に出展いたします。

展示会名：電子機器トータルソリューション展 2026 マイクロエレクトロニクスショー

会期：2026年6月10日（水）～12日（金）10：00～17：00

会場：東京ビッグサイト 東展示棟 東7ホール

ブース番号：7F-07

展示内容：大学研究室技術紹介（アカデミックプラザ）

- ・ 一方向指向性ウィンドウサイネージ「UNI」
- ・ 可変色透明フィルム「Chromodot:」
- ・ 空中映像ディスプレイシステム「Mirage:」
- ・ 浮遊映像プラットフォームシステム「FLOAT」
- ・ 見た目の形状が変わる販促用POPディスプレイシステム
- ・ 立体映像を用いた店舗での商品展示と物流・セキュリティ等の関連技術
- ・ アート思考、デザイン思考、デザイン経営と人生100年時代の最適解



[詳しくは、出展 PR 情報で](#)

甲南大学知能情報学部 阪本研究室では、空中サイネージの実現を目的として、**立体映像技術とそれを活用した各種サイネージディスプレイシステムの研究**に取り組んでいます。



立体映像によるホクホク感の表現



立体映像とゼリー(実物)との融合表示と照明による色変化



トロトロ感の動き再現

なお、「電子機器トータルソリューション展 2026」の詳細については同展示会ホームページ (<https://www.jpcashow.com/show2026/index.html>) をご参照下さい。

More Fun, More Crazy! More Fun, More Crazy! More Fun, More Crazy!

甲南大学知能情報学部 阪本研究室

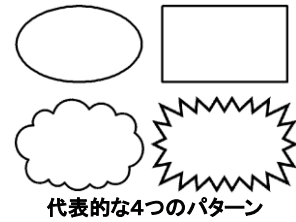
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 電話番号 078-431-4341 (代表)

甲南学園広報部 078-435-2314 e-mail kouhou@adm.konan-u.ac.jp

甲南 FRONT (産学連携) 078-435-2754 e-mail officefront@adm.konan-u.ac.jp

■研究内容ピックアップ —見た目の形状が変わる販促用POPディスプレイシステム—

店舗などでは、販促用にPOPパネル・ボードが数多く使用され、大量のゴミを生み出している。書き換え可能な材料を活用すれば、この問題を少しは解決できるが、POPディスプレイには様々なデザイン・形状があるため、形状を変えようとすると材料を切断するしか方法がなく、結局ゴミを大量に生み出すことになる。展示では、こうした問題を解決するため、**錯視を利用して見た目の形状を変える販促用POPディスプレイ**を紹介します。



代表的な4つのパターン

■「見た目の形状が変わる販促用POPディスプレイシステム」誕生の背景

POPカードの典型的な形状は、長方形、楕円形、雲形、ギザギザの4パターンである。当初、POPカード上の描画面の形状を機械的に変化させる方法を研究したが、これは見当違いの研究開発方針であった。この形状が変化する店頭販促用POPディスプレイの開発における試行錯誤の経緯、「錯視の利用」を見出すまでの失敗事例とその改善、デザイン思考に基づくイノベーション（**モノの見方と視点の変化、発想・アイデアの新機軸**）、講義で用いているデザイン演習課題を講演発表（アカデミックプラザ内）で紹介いたします。



錯視を利用した形状変化

講演日時：2026年6月12日（金）13:40~14:00

講演会場：東展示棟 東7ホール セミナー会場9

講演題目：デザイン思考による見た目の形状変化を活用したPOPディスプレイシステムの開発



POP

■展示内容紹介（詳細は動画をご覧ください）

一方向指向性ウィンドウサイネージ「UNI」

道路に面した店舗の大きなガラスウィンドウには、フィルムにより店舗ブランドのロゴマークなどを装飾することもあるが、店内から見た場合には、どうしても裏表が逆になった（反転した）映像が見えてしまう。本技術展示は、偏光技術を活用して**裏側からは店舗ロゴマークのフィルムを無色透明（不可視）にする**ことで、このような問題を解決するものである。

可変色透明フィルム「Chromodot:」

道路に面した店舗の大きなガラスウィンドウに、店舗ブランドのロゴマークなどを装飾することがあるが、貼付するカラーフィルムを色数に応じて用意する必要がある。本技術展示では、一方向指向性ウィンドウサイネージ「UNI」の研究において技術開発した、貼付する透明フィルムの**向きを変える**（光学軸を回転させる）**だけで、表示色が変化する**フィルム技術のデモ展示を行う。

空中映像ディスプレイシステム「Mirage:」

空中に映像を結像させて表示するためには、どこかにレンズやミラーなどの光学部品を配置しなければならないが、ヒトの視界に入る空間にガラスやプラスチック製の光学部品を配置すると、ヒトの通行や車の交通の妨げとなる。本展示では、**水の膜（シャボン玉）を光学反射膜として活用**することで、こうした問題を解決した空中映像ディスプレイシステム「Mirage:」のデモ展示を行う。

浮遊映像プラットフォームシステム「FLOAT」

空中に映像を結像させて表示するためには、どこかにレンズやミラーなどの光学部品を配置しなければならない。本展示では、**光学部品を空中に配置**するために開発した浮遊映像プラットフォームシステム「FLOAT」のデモ展示を行う。また、この「FLOAT」プラットフォームそれ自体を、**空中に浮遊する投影スクリーン**とすることで、空中サイネージとして利用することも可能なことを紹介する。



UNI / Chromodot:



Mirage:



FLOAT